

学 位 論 文 要 旨

氏 名 佐藤 克士

題 目 小学校社会科産業学習論研究

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本研究は、小学校社会科産業学習の全体構成に関わるカリキュラム編成論を検討するとともに、今日のグローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の授業構成論を提案しようとするものである。

わが国の社会科教育において産業を事例とした学習（以下、産業学習）は、社会科発足以来重視されてきた内容の1つである。先行研究では、わが国の学習指導要領の論理に基づく産業学習の改善をめざし、様々な研究が展開されてきた。例えば、カリキュラム研究に関しては、新産業分類に基づくカリキュラム編成の提案や、諸外国の内容分析が行われてきた。しかし、これらの研究では、構想や事例紹介に留まっており、現実的にわが国のそれに改善・変革を示唆する成果は生み出されていない。一方、授業開発研究に関しては、主に共感的理解と同心円拡大法に基づく産業学習の課題克服をめざす授業づくりが行われてきた。例えば、社会諸科学の成果である理論や概念を獲得させたり、産業従事者の「工夫や努力」の意味や理由を科学的に捉えさせたりする産業学習は、子供に科学的な社会認識形成を保証する授業として高く評価されてきた。しかし、これまでの研究では、産業を窓に現代社会の「いま」に迫る産業学習は提案されていない。今日の社会をグローバル化した社会と捉えるならば、産業の基本構造である生産・流通・消費のメカニズムを国際社会の中に位置づけ、国内経済とグローバル経済の双方の視点から内容を編成したり、他地域との相互関係を異なる空間相互の関係性を視点に考察させたりすることを通して、グローバル化した社会の特質や本質である世界規模での他地域（諸外国）との相互関係の強化や（その結果として）社会空間の変容についての認識形成を保証する産業学習が求められよう。

本研究では、上記のような問題意識のもと、小学校社会科産業学習の全体構成に関わるカリキュラム編成論を検討するとともに、今日のグローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の授業構成論を提起することを目的に研究を進めた。

第1章では、産業学習のカリキュラム編成論に関して、社会科教育系の学会において定評が

あるイングランド地理教育における「産業学習」を事例に、社会認識形成と世界像形成の 2 つ視点から検討した。具体的に、社会認識形成に関しては、『ナショナル・カリキュラム地理 (KS3)』に示された地理学の成果を中心とする 7 つの鍵概念（「場所」、「空間」、「スケール」、「相互関係」、「自然的プロセスと人文的プロセス」、「環境の相互作用と持続可能な開発」、「文化の理解と多様性」）の獲得及び活用を通して、科学的な社会認識が系統的に形成される構成となっていた。一方、世界像形成に関しては、第一次・第二次産業の学習では国内の特色的な地域が、第三次産業では国内外の特色的な地域や発達段階の異なる地域が事例地として選定され、これらの事例地の学習を通して段階的に子供の地理的空間が拡大されるよう構成されていた。また、子供の地理的空間を段階的に拡大させるために、第一次・第二次産業の学習ではナショナル・スケールを基盤とする英国地誌学習が、第三次産業の学習ではグローバル・スケールを基盤とする世界地誌学習が展開されていた。これらの学習では、いずれも多核的同心円拡大法の論理に基づきローカルまたはリージョナル・スケールの事例地が複数箇所選定されており、これらの事例地を学習することを通して、（自国の）国土や世界の諸地域に関する認識及び国土像や世界像の形成が企図されていることを明らかにした。

第 2 章では、これまでの産業学習研究の特質と課題を内容論的アプローチと方法論的アプローチの 2 つの視点から検討した上で、今日のグローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の授業構成論を提起した。具体的には、近年の地理学や社会学等空間論研究の成果をもとに、今日のグローバル化した社会を「異なるスケールの相互作用によって、絶えず空間が変容する社会」と規定した上で、空間の重層性や構築性を異なるスケールの関係性から多面的・多角的に捉えさせる授業構成論を提案した。本授業構成論は、「空間的プロセスを認識する段階」、「社会空間の重層性・階層性やスケール間の関係性を認識する段階」、「持続可能な社会空間を創造する段階」という 3 つの段階を辿らせることで、今日のグローバル化した社会の特質や本質である空間の重層性や構築性について異なるスケールの関係性を視点に多面的・多角的に捉えさせるとともに、獲得した知識や概念を活用して持続可能な社会空間について考察することをめざすものである。

第 3 章～5 章では、上述した授業構成論に基づき、グローバル化した社会の認識形成をめざす授業モデルを水産業、観光産業、身近な地域の農業を事例に開発した。

今後の課題として 3 点挙げられる。第 1 に、本研究で提起した授業構成論をもとに、引き続き、今日のグローバル化した社会認識形成をめざす産業学習の授業モデルを開発していくことである。第 2 に、理論的根拠とした地理学や社会学をはじめとする空間論研究の成果の動向を踏まえながら、授業構成論のさらなる精緻化を図っていくことである。第 3 に、第 5 章で開発した身近な地域の農業を事例とした産業学習の授業モデルに関して、その有効性を実験授業により検証していくことである。